

**委託事業実施内容報告書**  
**令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(C)】**

**実施内容報告書**

団体名：特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海

**1. 事業の概要**

事業名称	ブラジル学校における日常生活及びキャリア教育としての日本語コミュニケーション力向上モデルプロジェクト
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	国内のブラジル学校に在籍する生徒のほとんどは卒業後も日本で生活を継続しているが、在学中に日本社会で社会人として活躍するために必要な日本語力を身につけられていないため、日本企業に正社員として雇用されるケースは非常に稀で、非正規雇用やニート、フリーターとなってしまっている者が多い。そこには、日本語の授業時間数が短いことや、専門家による授業を受けられていないこと、体系的なカリキュラムや教材がないこと、卒業後の自身のキャリアをイメージすることが難しいために日本語習得に関する意欲があまり高くないこと等、様々な要因があった。
事業の目的	<p>【背景】2020年5月現在、愛知県内には13のブラジル学校があり、うち通信制の2校を除く11校に1,140人が在籍している(注1)。これらすべての学校で日本語教育が行われているが、週の授業時間は平均3～4時間と少なく、また日本語教師の資格(注2)をもつ日本人教師の授業を受ける機会も少なく、日常生活に必要な日本語を習得することさえ困難な状況にある。</p> <p>【目的】国内のブラジル学校に在籍する生徒が、日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び日本語でも自身のキャリアを考えられる力を身につけ、卒業後も日本社会で活躍できる人材に育てることを目的とする(注3)。</p> <p>(注1)愛知県多文化共生推進室「2020年度 愛知県内の外国人学校に対する調査」について(ブラジル人学校編)  (注2)ここでは、①大学で日本語教育を専攻で卒業、②民間の420時間以上の養成講座を修了、③日本語教育能力検定試験に合格、のいずれか1つ以上を有する者を指す。  (注3)卒業後にブラジルに帰国・移住し、進学・就労を希望する者もいることから、本事業は対象者全員に卒業後も日本で滞在したり就職したりすることを強いたり推奨したりするものではない。</p>
事業内容の概要(課題をどのように解決するのか、どのような点が先進的な取組になるのか分かるように記載)	<p>愛知県内のブラジル学校でも、もっとも日本語教育に熱心な「エスコーラ・ネクター」(豊田市、ブラジル政府認可校)をモデル校とし、以下(1)～(4)の事業を通じて課題解決に取り組むとともに、国内の全ブラジル学校を対象に(5)を、すべての人を対象に(6)を実施した。</p> <p>(1)生活に必要な日本語力の向上  (2)キャリア教育としての日本語コミュニケーション力の向上  (3)ブラジル学校における日本語教育カリキュラム及び教材の開発  (4)ブラジル学校における日本語教育を担う人材の育成  (5)国内のブラジル学校における日本語教育実態調査  (6)ブラジル学校における日本語教育のあり方を考えるシンポジウムの開催</p>
事業の実施期間	令和 3年 6月～令和 4年 3月 ( 10か月間)

**2. 事業の実施体制**

**(1)運営委員会**

【運営委員】

1	西 クレオニセ	エスコーラ・ネクター 校長
2	ヒガシ リカ	エスコーラ・ネクター 教務主任
3	山家 ヤスエ	エスコーラ・ネクター 日本語教育事業担当
4	藤本 真理	特定非営利活動法人希望の光 代表理事
5	吉田 絵里菜	独立行政法人国際協力機構中部支所 調査役
6	堀 永乃	一般社団法人グローバル人財サポート浜松 代表理事
7	鈴木 崇夫	愛知淑徳大学 助教
8	村山 グスタボ 秀夫	株式会社Man to Man マネージャー
9	丸山 宗祐	豊田市国際まちづくり推進課
10	土井 佳彦	特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海 代表理事



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年7月1日(木) 10:00～12:30	2.5時間	猿投台交流館	西クレオニセ、ヒガシ・リカ、山家ヤスエ、藤本真理、吉田絵里菜、堀永乃、鈴木崇夫、村山グスタボ秀夫、丸山宗祐、土井佳彦	【議題】1. 自己紹介、2. 事業説明、3. 意見交換 【内容】別紙、議事録参照
2	令和3年11月12日 (金) 13:30～16:00	2.5時間	Zoom	西クレオニセ、ヒガシ・リカ、山家ヤスエ、藤本真理、吉田絵里菜、堀永乃、鈴木崇夫、村山グスタボ秀夫、丸山宗祐、土井佳彦	【議題】1. 事業進捗報告、2. 質疑応答・意見交換、3. 今後の予定 【内容】別紙、議事録参照
3	令和4年3月16日 (水) 10:00～12:30	2.5時間	Zoom	西クレオニセ、ヒガシ・リカ、山家ヤスエ、藤本真理、吉田絵里菜、堀永乃、鈴木崇夫、村山グスタボ秀夫、丸山宗祐、土井佳彦	【議題】1. 事業進捗報告、2. 質疑応答・意見交換、3. 今後の予定 【内容】別紙、議事録参照

**(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力**

連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市役所、(独法)JICA中部、(株)Man to Man、(一社)グローバル人財サポート浜松、(特活)希望の光、エスコーラ・ネクターからは各1,2名を運営委員として事業の企画運営・進捗確認等に協力いただいた。</li> <li>・豊田市役所と(株)Man to Manにはゲスト講師として、また(独法)JICA中部からは日本語指導者として日本語教育(取組1)及び教材等開発(取組2)に協力いただいた。</li> <li>・(一社)グローバル人財サポート浜松、エスコーラ・ネクター、学校法人HIRO学園には、ブラジル学校における日本語教育の充実を考えるシンポジウム(取組3)の企画・実施に協力いただいた。</li> <li>・(特活)希望の光、エスコーラ・ネクター、愛知県多文化共生推進室、在名古屋ブラジル総領事館には、日本語教育実態調査(取組5)の計画・実施に協力いただいた。</li> <li>・その他、愛知県内の大学や日本語学校等に所属する日本語教師等に、ブラジル学校における日本語指導者研修(取組4)等の実施に協力いただいた。</li> </ul>
------	---

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業全般を通じて、コーディネーター2名(土井、山家)が方針や基本的な内容等を企画した。</li> <li>・コーディネーターの企画案を運営委員及び日本語指導者等、各事業の協力者と相談し、詳細を決定。</li> <li>・日本語指導者の2名(松村、神谷)がコーディネーターの土井・山家とともに、日本語教育カリキュラムや教材等の作成及び日本語指導にあたった。【取組1, 2】</li> <li>・コーディネーターの土井が上記(2)に記載した関係機関・協力団体と連携し、日本語指導者の育成やシンポジウムの開催、実態調査の実施にあたった。【取組3, 4, 5】</li> </ul>
----------	---

3. 各取組の報告

特定のニーズに応じた日本語教育の実施【活動の名称:日本語コミュニケーションカチャレンジアップコース「SONHOプロジェクト」】

取組の目標	日本語を使って日常生活に必要なやりとりができるようになるとともに、卒業後のキャリア(将来ビジョン)を日本語で考え、表現できるようにすることを目指す。									
内容	<p>&lt;生活日本語&gt; 地域での体験、ワークショップ(地域での生活)、ゲスト講義(体験談)、暮らしとルーツ、地域の施設・イベント</p> <p>&lt;キャリア日本語&gt; 愛知県での仕事、面接の準備(自己PR、質疑応答、模擬面接)、豊田市での仕事、大学訪問、進路のための情報収集、キャリアプランニング</p>									
実施期間	令和 3年 8月 16日～令和 3年 11月 15日	授業時間・コマ数	1回1.5～5時間 × 20回 = 37時間							
対象者	エスコラー・ネクター中等課程(高校生クラス)在籍者	参加者	総数 12人 (受講者 5人, 指導者・支援者等 7人)							
カリキュラム活用	IV 07 公共交通機関を利用する VI 11 仕事を探す VII 14 他者との関係を円滑にする IX 18 人生設計をする 19 学習する X 21 通信する									
使用した教材・リソース	文部科学省「高校生のライフプランニング」、JICE「働くための日本語」、三重県「外国人の子どもに向けたキャリアガイド」 世界地図、豊田市タウンマップ&観光パンフレット									
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			5							

日本語教育の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年8月16日(月) 10:20～11:50	1.5	エスコラー・ネクター	4	地域での体験	生徒が自身の暮らす地域について知っていること、調べたことを共有する	神谷樹	
2	令和3年8月19日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコラー・ネクター	5	愛知県の仕事	両親がどこで・どんな仕事をしているかを共有する、愛知県の地理や産業について知る	松村月音	
3	令和3年8月24日(月) 12:20～14:50	2.5	エスコラー・ネクター	2	地域での生活	ゲスト講師に地域で暮らしてきた経験を話してもらい、自身が地域で暮らし経験したことを振り返る	神谷樹 村山グスタボ秀夫 照屋ユウジ	
4	令和3年8月26日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコラー・ネクター	4	面接の準備① 自己PR	働く目的について考えて話す、自己PRをできることについて考える	松村月音	
5	令和3年8月31日(火) 10:20～11:50	1.5	エスコラー・ネクター	4	地域での生活	ゲスト講師の話を振り返る、ゲスト講師の体験談と自身の体験談の共通点や異なる点について考える	神谷樹	
6	令和3年9月9日(木) 12:20～13:50	1.5	Zoom	5	面接の準備② 質疑応答	自身をアピールすることの必要性と、面接場面を知る、自身の長所・短所について考え、面接を意識して話す	松村月音	
7	令和3年9月16日(木) 12:20～14:50	2.5	Zoom	5	面接の準備③ 実践練習	ゲスト講師の体験や日本で働く上で必要なことを知る、ゲスト講師を面接官とした面接体験をする	松村月音 村山グスタボ秀夫	補助者1名
8	令和3年9月27日(月) 10:20～13:50	1.5	Zoom	5	自分とルーツ	自身のルーツや、それが自分との結びつきについて考える	神谷樹	
9	令和3年9月30日(木) 12:20～14:20	2	Zoom	4	豊田市の仕事	ゲスト講師から豊田市の産業や外国人の仕事について学ぶ、豊田市で働くとしたら自分に何が必要か考える	松村月音 丸山宗祐 奥原裕二	補助者1名
10	令和3年10月4日(月) 10:20～13:50	1.5	エスコラー・ネクター	4	自分とルーツ地域の施設・イベント①	地域での暮らしや興味について紹介する地図を作成し、それをもとに話す	神谷樹	補助者1名
11	令和3年10月7日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコラー・ネクター	4	仕事・面接のまとめ	自己PRを完成させる、面接を意識した一連のやりとりを実践する	松村月音	補助者1名
12	令和3年10月14日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコラー・ネクター	4	大学訪問準備	大学で好きなことや自分自身のことを話せるようにする、ポルトガル語講座の内容について意見を言う	松村月音	補助者1名
13	令和3年10月18日(月) 13:00～18:00	5	日本福祉大学 東海キャンパス	3	大学訪問	大学までの公共交通機関を利用する、大学生にポルトガル語を話す体験をもらう	松村月音 山家ヤスエ	

14	令和3年10月21日(木) 12:20~13:50	1.5	エスコラー・ネクター	5	進路のための情報収集	興味のある職業の進路を知る、進路について具体的な情報を収集する	松村月音	補助者1名
15	令和3年10月25日(月) 12:20~13:50	1.5	エスコラー・ネクター	3	自分とルーツ地域の施設・イベント②	地図に記入した内容についてクラスで話す、これまで生活編の授業で話したことを一度振り返る	神谷樹	補助者1名
16	令和3年10月28日(木) 12:20~13:40	1.5	エスコラー・ネクター	5	キャリアプランニング	これからの進路(キャリア)についてキャリアプランシートを作成しプランを共有する	松村月音	補助者1名
17	令和3年11月1日(月) 12:20~13:50	1.5	エスコラー・ネクター	4	自分とルーツ地域の施設・イベント③	地域での暮らしや興味について引き続きクラスで話しながら地図を作成する	神谷樹	
18	令和3年11月4日(木) 12:20~13:50	1.5	エスコラー・ネクター	5	キャリアプランニングのまとめ	一週間の具体的な学習目標を立てて共有する、コースを通して思ったことや将来の自分についての考えを話す	松村月音	補助者1名
19	令和3年11月8日(月) 12:20~14:20	2	エスコラー・ネクター	2	生活編まとめ①	これまでの学習内容を整理し地図を完成させる	神谷樹	補助者1名
20	令和3年11月15日(月) 12:20~14:20	2	エスコラー・ネクター	3	生活編まとめ②	作成した地域の地図や紹介カードを見ながら自分の暮らしや興味について話す	神谷樹	補助者1名

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第3回 令和3年8月24日】

- ・ゲスト講師の村山グスタボ秀夫さん(株式会社Man to Man マネージャー)による講義「夢をもつことの大切さ」
- ・同社スタッフの照屋ユウジさんによる体験談
- ・生徒との質疑応答
- ・ゲスト講師の話聞いてのふりかえり



○取組事例②

【第13回 令和3年10月18日】

- ・エスコラー・ネクターから日本福祉大学東海キャンパスへの行き方調べ(公共交通機関)
- ・電車と徒歩で移動
- ・大学でエスコラー・ネクターの紹介
- ・生徒による自己紹介
- ・生徒による「ポルトガル語講座」
- ・大学生との質疑応答
- ・学内見学



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

受講者5名の日本語力には大きなバラつきがあるものの、別紙受講者アンケート及び日本語指導者評価にあるとおり、受講者全員が日本語力の伸びを実感するとともに、将来について考え、日本語で表現できるようになったことが最大の成果と考える。さらに、これまでブラジル人教師から日本語を学んでも、実際に日本語を使用することがなく、日本語使用に自信がもてないという声が多かったのに対し、本取組で日本人教師等と日本語でのやりとりを通じて、日本語の使用に自信がもてたという感想を得たことは、在日ブラジル学校における日本語教育の特徴的な課題とそれに対する成果を表している。

(3) 今後の改善点について

今回の受講者5名は、高校2,3年生であったため、限られた時間での日本語習得やキャリアについて考え、まとめることは困難であった。学校関係者や日本語指導者、また運営委員からも「本来であれば中学生年齢からはじめていないと、高校卒業ごの進路・進学には間に合わない」という意見で一致した。それらをすべて本事業(実践プログラム)で行うことはできないため、通常の日本語授業のカリキュラムにどう組み込んでいくかを検討し、継続的・安定的に実施できるようにすることが必要である。

取り組みの成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進【活動の名称:ブラジル学校における日本語教育の充実を考えるシンポジウム】											
取組の目標	日本語とポルトガル語の2言語で、ブラジル学校における日本語教育の充実に向けて考えるためのシンポジウムを開催し、ブラジル学校関係者への日本語教育に対する理解促進及び今後の授業等改善への契機となることを目指す。										
内 容	第1部 「ブラジル学校における日本語教育実態調査2021」報告 土井佳彦(NPO法人多文化共生リソースセンター東海) 第2部 「エスコーラ・ネクターにおける日本語教育実践事例」報告 松村月音(SONHOプロジェクト) 生徒による「わたしの夢」発表(録画) 第3部 パネルディスカッション「今後のブラジル学校における日本語教育の充実に向けて」 鈴木崇夫(愛知淑徳大学) 拝野寿美子(神田外語大学) 古川カチア(HIRO学園) 堀永乃(一般社団法人グローバル人財サポート浜松) 山家ヤスエ(エスコーラ・ネクター) 進行:土井佳彦										
開催時間数	総時間 2時間			内訳 2時間 ×			1回				
参加対象者	ブラジル学校における日本語教育に興味関心のある方ならどなたでも						参加者数 (内 外国人数)		79人( 5人) * Zoomウェビナー申込者数		
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
			5							74	
活動の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	テーマ	概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	令和4年3月13日(日) 10:00~12:00	2	Zoomウェビナー、 YouTube	79	在日ブラジル学校における日本語教育の現状と課題	「在日ブラジル学校日本語教育実態調査2021」報告、エスコーラ・ネクターにおける日本語教育実践報告、パネルディスカッション		進行兼発表:土井佳彦 発表:松村月音、山家ヤスエ、拝野寿美子、鈴木崇夫、古川カチア、鈴木崇夫			

(1) 特徴的な活動風景

○取組事例①

<p>【第1回 令和4年3月13日】</p> <p>10:00~ 主催者挨拶、趣旨説明</p> <p>10:05~ 「在日ブラジル学校日本語教育実態調査2021」報告</p> <p>10:30~ エスコーラ・ネクターにおける日本語教育実践報告及び、生徒による「私の夢」発表(録画)</p> <p>10:50~ パネルディスカッション「今後のブラジル学校における日本語教育とキャリア形成を考える」            鈴木崇夫氏(愛知淑徳大学 助教)、拝野寿美子氏(神田外語大学 准教授)、古川カチア氏(HIRO学園 日本語教育担当)            堀永乃氏(グローバル人財サポート浜松)、山家ヤスエ氏(エスコーラ・ネクター 代表)、土井佳彦</p> <p>11:55~ まとめ</p> <p>12:00 終了</p>
---



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

別紙「視聴者アンケート結果」にある通り、多くの方からブラジル学校における日本語教育について、理解と関心が寄せられた。また、本取組の意義についても共感が得られたことが何よりの成果だと考える。特に、同様のシンポジウムを今後も継続的に開催してほしいという声や、ブラジル学校にボランティア等で関わりをもちたいという人の声には、ブラジル学校関係者が大変感激した。当団体としても、今まで以上にブラジル学校と地域の方々をつなぐ役割を担っていきたい。

(3) 今後の改善点について

当初、同時通訳をつけて日本語とポルトガル語の2言語で実施し、それにより日本語が不自由なブラジル学校関係者への参加を促したかったが、予算と通訳者の日程が調整つかず、日本語だけの実施となったため、ブラジル学校関係者の参加が非常に少なかった。次年度は事前の調整に努め、2言語開催または同様のシンポジウムを日本語とポルトガル語に分けて2回開催することも検討したい。

任意取組＜取組名＞【活動の名称:日本語コミュニケーションカチャレンジアップ教材及びカリキュラム等の開発】										
参加対象者	エスコーラ・ネクター中等課程(高校生クラス)在籍者					参加者数 (内 外国人数)	5人( 5人)			
開催時間数	総時間 37時間					内訳 1.5～5時間 × 20回				
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
			5							
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年8月16日(月) 10:20～11:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	4	地域での体験	生徒が自身の暮らす地域について 知っていること、調べたことを共有す る	神谷樹			
2	令和3年8月19日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	5	愛知県の仕事	両親がどこで・どんな仕事をしてい るか共有する、愛知県の地理や産業 について知る	松村月音			
3	令和3年8月24日(月) 12:20～14:50	2.5	エスコーラ・ ネクター	2	地域での生活	ゲスト講師に地域で暮らしてきた経 験を話してもらい、自身が地域で暮ら し経験したことを振り返る	神谷樹			
4	令和3年8月26日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	4	面接の準備① 自己PR	働く目的について考えて話す、自己 PRをできることについて考える	松村月音			
5	令和3年8月31日(火) 10:20～11:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	4	地域での生活	ゲスト講師の話を振り返る、ゲスト講 師の体験談と自身の体験談の共通 点や異なる点について考える	神谷樹			
6	令和3年9月9日(木) 12:20～13:50	1.5	Zoom	5	面接の準備② 質疑応答	自身をアピールすることの必要性と、 面接場面を知る、自身の長所・短所 について考え、面接を意識して話す	松村月音			
7	令和3年9月16日(木) 12:20～14:50	2.5	Zoom	5	面接の準備③ 実践練習	ゲスト講師の体験や日本で働く上で 必要なことを知る、ゲスト講師を面接 官とした面接体験をする	松村月音			
8	令和3年9月27日(月) 10:20～13:50	1.5	Zoom	5	自分とルーツ	自身のルーツや、それが自分との結 びについて考える	神谷樹			
9	令和3年9月30日(木) 12:20～14:20	2	Zoom	4	豊田市の仕事	ゲスト講師から豊田市の産業や外国 人の仕事について学ぶ、豊田市で働 くとしたら自分に何が必要か考える	松村月音			
10	令和3年10月4日(月) 10:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	4	自分とルーツ地 域の施設・イベ ント①	地域での暮らしや興味について紹介 する地図を作成し、それをもとに話す	神谷樹			
11	令和3年10月7日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	4	仕事・面接のま とめ	自己PRを完成させる、面接を意識し た一連のやりとりを実践する	松村月音			
12	令和3年10月14日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	4	大学訪問準備	大学で好きなことや自分自身のこと を話せるようにする、ポルトガル語講 座の内容について意見を言う	松村月音			
13	令和3年10月18日(月) 13:00～18:00	5	日本福祉大 学 東海 キャンパス	3	大学訪問	大学までの公共交通機関を利用す る、大学生にポルトガル語を話す体 験をしてもらう	松村月音			
14	令和3年10月21日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	5	進路のための情 報収集	興味のある職業の進路を知る、進路 について具体的な情報を収集する	松村月音			
15	令和3年10月25日(月) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	3	自分とルーツ地 域の施設・イベ ント②	地図に記入した内容についてクラス で話す、これまで生活編の授業で話 したことを一度振り返る	神谷樹			
16	令和3年10月28日(木) 12:20～13:40	1.5	エスコーラ・ ネクター	5	キャリアプラン ニング	これからの進路(キャリア)について キャリアプランシートを作成しプラン を共有する	松村月音			
17	令和3年11月1日(月) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	4	自分とルーツ地 域の施設・イベ ント③	地域での暮らしや興味について引き 続きクラスで話しながら地図を作成 する	神谷樹			
18	令和3年11月4日(木) 12:20～13:50	1.5	エスコーラ・ ネクター	5	キャリアプラン ニングのまとめ	一週間の具体的な学習目標を立て て共有する、コースを通して思ったこ とや将来の自分についての考えを話 す	松村月音			
19	令和3年11月8日(月) 12:20～14:20	2	エスコーラ・ ネクター	2	生活編まとめ①	これまでの学習内容を整理し地図を 完成させる	神谷樹			
20	令和3年11月15日(月) 12:20～14:20	2	エスコーラ・ ネクター	3	生活編まとめ②	作成した地域の地図や紹介カードを 見ながら自分の暮らしや興味につい て話す	神谷樹			
計		37		80			*カリキュラ ム作成者			

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 令和3年7月3日】  
 教材・カリキュラム等開発会議 議題  
 1. コース概要とカリキュラムの方針  
 2. カリキュラム  
 3. 教材・教案  
 4. 今後のタスク・スケジュール



○取組事例②

【第2回 令和3年7月22日】  
 教材・カリキュラム等開発会議 議題  
 1. カリキュラム  
 2. 今後のタスク・スケジュール



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

ブラジル学校(エスコラ・ネクター)の現状と課題をふまえ、また本取組の受講者の個別事情(来日時期、日本語力、家庭や日常生活における日本語使用状況等)を考慮したカリキュラム等の開発ができたこと、またその開発プロセスを通じて、ブラジル学校の日本語教育以外の授業担当教師ともコミュニケーションをとり、教科の壁を超えた連携の重要性を関係者間で共有できたことが非常に大きな成果だと考える。  
 また、開発したカリキュラムと教案をポルトガル語に翻訳したことで、エスコラ・ネクターからは、今後日本語ネイティブではない教師が担当する際にも非常に参考になり、スムーズな授業実施が可能となると好評を得た。

(3) 今後の改善点について

今回日本人教師が開発したカリキュラムや教案等を活用し、今後他の日本人またはブラジル人教師が同様の授業を実施できるか、検証が必要となる(現在、本事業とは別にSONHOプロジェクトとして独自に取り組み中である)。この検証を通じて教案等を改善し、よりスムーズな授業実施につなげていきたい。  
 また、今回開発できたカリキュラム等は20回分のみであることから、本来必要な中・高校生クラス計6年間分のカリキュラム作成等も検討していく必要がある。

任意取組<取組名> 【活動の名称:ブラジル学校における日本語指導者研修】

参加対象者		参加者数 (内 外国人数)					無制限				
参加対象者		ブラジル学校における日本語教育担当者及び関心のある方ならどなたでも									
開催時間数		総時間 3時間					内訳 1時間 × 3回				
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
養成・研修の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年8月16日(月) 10:20~11:50	1	YouTube	不明	在日ブラジル学校の現状と課題	愛知県内のブラジル学校の現場と課題、エスコラ・ネクターの事例、ダブルリミテッドとの闘い		山家ヤスエ			
2	令和3年8月19日(木) 12:20~13:50	1	YouTube	不明	生活上のコミュニケーション達成を目的とした教え方	よくある「外国語の勉強」について、言語の習得に必要なこと・重要なこと、コミュニケーションについて		柏谷涼介			
3	令和3年11月15日(月) 12:20~14:20	1	YouTube	不明	日本語能力試験とその対策	日本語能力試験とは、問題例とその対策		田中真由美			

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 令和4年3月1日~3月18日】  
 ・愛知県におけるブラジル学校の現状と課題  
 ・エスコラ・ネクターの取組  
 ・ダブルリミテッドとの闘い  
 \* 上記を日本語(下記、写真左)とポルトガル語(同、右)で講義



○取組事例②

【第2回 令和4年3月1日~3月18日】  
 ・よくある「外国語の勉強」について  
 ・言語の習得に必要なこと、重要なこと  
 ・コミュニケーションについて考えよう  
 ・文法偏重を脱するには  
 \* 講義は日本語で行い、レジュメを日本語とポルトガル語で共有



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

「ブラジル学校において日本語教育を担う新たな人材の育成及び既存の指導者のスキルアップを行い、今後の日本語指導力が向上することを目指す。」という当初の目標については、それに資する研修動画を作成し、関係者に見てもらったことができたことで一定の役割を果たせたと思う。特に、当初は集合型研修を予定していたが、コロナ禍でそれが困難となり、また受講対象者からオンデマンド研修の希望が多く寄せられたこともあり、柔軟に対応できたことはよかった。  
 また、研修動画や講義レジュメを日本語とポルトガル語の2言語で提供したことで、各ブラジル学校及び日本語教育担当教師の事情に合わせて選択できるようにしたことについて、関係者から高い評価を得られた。

(3) 今後の改善点について

コロナ禍での研修開催方法や時期が二転三転し、結果として十分な研修内容・時間を提供することができなかったため、今後はそれらを充実させていくことが最大の改善点である。  
 また、研修プログラムの開発過程において、より多くの講師とのつながりをつくり、多様な研修メニューを提供できるようにしていきたいと考える。  
 さらには、受講のしやすさだけでなく、受講者にとってのメリットを最大化するためにも、オンデマンド、オンライン、対面の3つの形式を組み合わせた受講機会を提供していきたい。

任意取組<取組名> 【活動の名称:ブラジル学校における日本語教育実態調査】

参加対象者	在日ブラジル学校(ブラジル政府認可校)36校のうち、中等課程をもつ26校の代表者等					参加者数 (内 外国人数)	12人( 12人)			
開催時間数	総時間 1時間(アンケート回答時間)					内訳 1時間 × 1回				
受講者の出身 (ルーツ)・国内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			12							
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和3年8月20日(金) ~9月20日(月)	1	Google フォーム	12	ブラジル学校における日本語教育の現状と課題	日本語教育授業時間数、日本語教師人数、使用教材、研修の有無等				

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

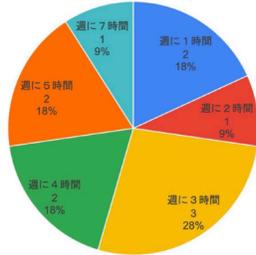
【調査期間 令和3年8月20日～令和3年9月20日】

＜主な質問項目＞

- ・学校の名前、連絡先、所在地、ウェブサイト、SNS、ブラジル政府認可の有無と取得時期、法人格の有無と種類
- ・在籍者数、日本語教育の有無、日本語教師数、日本語教師の資格の有無、日本語教育カリキュラムの有無、使用教材
- ・日本語教師への研修機会の有無、希望する研修内容

2-4. 調査結果—協力校（日本語授業あり）

Q18.日本語の授業は、週に何時間ありますか？



2-4. Resultado da pesquisa (escolas com o ensino da língua japonesa)

Q18. Quantas horas tem a aula de japonês por semana?

respostas 11



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

今回、初めてブラジル学校における日本語教育の実態を明らかにすることができた。また、その結果をポルトガル語に翻訳してブラジル学校関係者やブラジル領事館等と共有したことで、今後も継続的に日本語教育の充実について共に考えていくことができるようになった。さらに、アンケートを通じて、ブラジル学校で日本語教育を担当している人の状況(研修機会の有無等)や、希望する研修内容等を把握できたことで、研修プログラムの開発につなげることができた。

(3) 今後の改善点について

調査対象校26校のうち、回答が得られたのは12校(46%)にとどまった。何度も電話で協力依頼をしたが、多くの学校から「申し訳ないが、コロナ対応でそれどころじゃない」という返事であった。可能であれば時期を変えて、同様の調査を行い、より多くの回答が得られるようにしたい。また、回答者のうち5校程度を訪問し、詳細についてヒアリングを予定していたが、これもコロナ禍での訪問が不可となり、多忙のためオンラインでも時期を変えてほしいとの希望が多かったため、実施を諦めた。次回調査ではぜひ訪問により詳細を把握するとともに、ブラジル学校関係者との関係構築に努めたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

【背景】2020年5月現在、愛知県内には13のブラジル学校があり、うち通信制の2校を除く11校に1,140人が在籍している(注1)。これらすべての学校で日本語教育が行われているが、週の授業時間は平均3～4時間と少なく、また日本語教師の資格(注2)をもつ日本人教師の授業を受ける機会も少なく、日常生活に必要な日本語を習得することさえ困難な状況にある。

【目的】国内のブラジル学校に在籍する生徒が、日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び日本語でも自身のキャリアを考えられる力を身につけ、卒業後も日本社会で活躍できる人材に育てることを目的とする(注3)。

(注1)愛知県多文化共生推進室「2020年度 愛知県内の外国人学校に対する調査」について(ブラジル人学校編)

(注2)ここでは、①大学で日本語教育を専攻で卒業、②民間の420時間以上の養成講座を修了、③日本語教育能力検定試験に合格、のいずれか1つ以上を有する者を指す。

(注3)卒業後にブラジルに帰国・移住し、進学・就労を希望する者もいることから、本事業は対象者全員に卒業後も日本で滞在したり就職したりすることを強いたり推奨したりするものではない。

(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

本事業全体を通じて得られた主な成果として、以下の3点をあげる。  
 ・ブラジル学校「エスコラ・ネクター」の実情に踏まえた日本語教育カリキュラム等の開発及び、それに基づいた日本語教育が実施できた。  
 ・全国のブラジル学校における日本語教育の現状と課題を一定程度把握でき、またそこから見えた日本語教育担当者が抱える課題等について、時間や距離等物理的な制約を排した形(オンデマンド)で研修機会を提供できた。  
 ・本事業全体の取組や、そこから得られた課題等をシンポジウム(オンライン、オンデマンド)で広く発信したことで、多くの人から理解と共感を得ることができた。  
 さらに、これらを通じて愛知県内外のブラジル学校関係者、日本語教育関係者、自治体、研究者等とのつながりがもてたことで、今後の事業展開に活かせる人的リソースが格段に増えたことも重要な成果と考える。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

豊田市役所、(独法)JICA中部、(株)Man to Man、(一社)グローバル人財サポート浜松、(特活)希望の光、エスコラ・ネクターからは各1,2名を運営委員として事業の企画運営・進捗確認等に協力いただいた。  
 豊田市役所と(株)Man to Manにはゲスト講師として、また(独法)JICA中部からは日本語指導者として日本語教育(取組1)及び教材等開発(取組2)に協力いただいた。  
 (一社)グローバル人財サポート浜松、エスコラ・ネクター、学校法人HIRO学園には、ブラジル学校における日本語教育の充実を考えるシンポジウム(取組3)の企画・実施に協力いただいた。  
 (特活)希望の光、エスコラ・ネクター、愛知県多文化共生推進室、在名古屋ブラジル総領事館には、日本語教育実態調査(取組5)の計画・実施に協力いただいた。  
 その他、愛知県内の大学や日本語学校等に所属する日本語教師等に、ブラジル学校における日本語指導者研修(取組4)等の実施に協力いただいた。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語教育(取組1, 2)については、当初エスコラ・ネクター以外のブラジル学校高校生にも呼びかけを行うことも考えていたが、コロナ禍での教室の人数制限もあり、エスコラ・ネクター在籍者に限定した。  
 シンポジウム(取組3)については、国内の関係者はもとより、ブラジルの日本語教師ネットワーク関係者を通じて広報を行ったことで、両国からの参加が得られた。また、当日参加が叶わない人に向けて後日オンデマンド配信も行ったことから、285回の再生回数があり、別紙「視聴者アンケート結果」にあるように、視聴者から多くの感謝の声が寄せられた。  
 人材育成(取組4)については、オンデマンド配信としたことで、総再生回数は120回と多くの方に見ていただけた。  
 実態調査(取組5)については、在名古屋ブラジル総領事館の協力を得たことで、国内すべての調査対象者に協力依頼をすることができた。

(5) 改善点, 今後の課題について

本事業を通じて新たに見えて主な課題として、以下の3点をあげる。

- ・ブラジル学校において中長期的(少なくとも中学1年～高校3年までの6年間)な日本語教育のカリキュラム、教案、教材等の確立が必要であること。ただし、各校によって事情がさまざまであるため、画一的なものではなく、柔軟に調整が可能なものとする。
- ・ブラジル学校で日本語教育を担当する教師が、研修を通じて必要な知識等を得るとともに、互いに切磋琢磨して指導力を向上できるようなネットワーク形成が必要である。
- ・ブラジル学校に対する、当該地域の自治体や多文化共生関係団体はもとより、地域住民への理解と協力が得られるよう、情報共有や関係構築のための場づくりが必要である。

次年度以降、上記の課題解決に取り組んでいきたい。

(7) その他参考資料

- 参考資料1 カリキュラム2021(日本語版・ポルトガル語版)
- 参考資料2 教案2021(日本語版・ポルトガル語版)
- 参考資料3 シンポジウムちらし
- 参考資料4 シンポジウム配布資料一式
- 参考資料5 シンポジウム視聴者アンケート集計結果
- 参考資料6 研修レジュメ一式(日本語版)
- 参考資料7 研修レジュメ一式(ポルトガル語版)
- 参考資料8 実態調査報告書(日本語版)
- 参考資料9 実態調査報告書(ポルトガル語版)
- 参考資料10 各種会議資料一式